



ネクスト・ソサエティ①(2002年90歳) (歴史の見たことのない未来)

6月①のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2024年6月1日(土)

ネクスト・ソサエティとは**知識社会**である。いかなる社会か、それはいかに**経済と経営**を変えるか。

日本の社会的な制度、政策、慣行は、1990年ごろまで有効に機能した。しかし、もはや満足に機能しているものは一つもない。

今まさに、再び新たな制度、政策、慣行が求められている。イノベーションとは日本にとってまさに**社会的な革新**である。

一度だけ、**経済が変わり**、新しい**経済**が生まれたと思った時があった。

1929年にアメリカの証券会社のヨーロッパ本部で新米社員として働いたときだった。上司だった主任エコノミストは、ウォールストリートの好況は永久に続くと思っていて疑わなかった。「投資」と題する立派な本を書き、アメリカ企業への株式投資が絶対確実な利殖の道であると断言した。私はこの主任エコノミストの助手に取り立てられ、その本の校正と索引づくりを任された。本が発行された翌々日、**ニューヨークの株式市場が崩壊**し、書店から本が姿を消した。私の職も失われた。

それから70年近く経った1990年代の半ば、**ニューエコノミーの到来**が論じられ、株式市場の活況は永久に続くものとされた。どこかで見た景色だった。

私は急激に変化しつつあるのは、**経済ではなく、社会のほう**であることに気づいた。IT革命はその要因の一つにすぎなかった。

人口構造の変化、特に**出生率の低下**、IT革命は一世紀を越えて続いてきた流れの一つの頂点にすぎなかったが、**若年人口の減少**は、それまでの長い流れの逆転であり、**前例のないもの**だった。

逆転は他にもあった。富と雇用の生み手としての**製造業の地位**の変化だった。さらにもう一つの**前例のないこと**として**労働力の多様化**があった。

ネクスト・ソサエティをもたらす**社会の変化**こそ、あらゆる組織、企業、政府などあらゆる組織にとって**最大の脅威**であり、同時に**最大の好機**である。

一つひとつの組織、一人ひとりの成功と失敗にとって、**経済よりも社会の変化**の方が重大な意味を持つに至ったということである。

2001年9月の**テロ攻撃**は、世界を急激な変化と**乱気流の時代**へと導いた。

乱気流の時代にあっては、単なる対応のうまさでは成功は望みえない。

大きな流れを知り、個々の変化に振り回されず、基本に従い、**大きな流れそのものを機会**としなければならない。